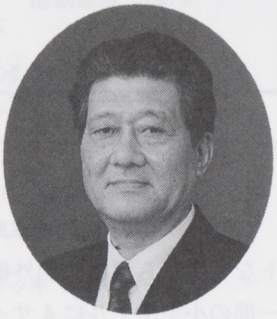
特別寄稿　10周年に寄せて

〝新しい価値の創造をめざして〟

ヤマハ技術会会長
長谷川武彦



早いもので昭和59年に創立された技術会も本年で10年が過ぎました。

この10年間の世の中の変化は予想をはるかに越えて，生き証人としての私達を驚かせています。

特に東西冷戦構造が崩壊した後，秩序なき国際関係の現実に，民族主義の台頭が複雑にからみ，解決されるべき課題の輪郭は次第に明らかになりつつありますが依然として混迷しています。

その中にあって日本の産業経済力が突出したことに伴い，貿易摩擦も激しくなり，相互理解が得られないまま国際協調や国際貢献でその成果を問われています。

一方で地球環境やエネルギーとの調和も世界的課題となっています。

技術という視点から見ると，これらの現象は，皆，我々人類の生きて来た行為の必然的な結果ですから，宇宙船地球号の将来を見たとき，やはり我々自身の手で健全なものにしていかねばなりません。

混迷したなかで迎えるであろう21世紀も，ヤマハ発動機は世界の人々の生活を豊かに，新たな感動を提供し続ける企業でありたいと考えます。

また，メーカーである以上基本的にモノづくりの中で，この宇宙船地球号を健全化しつつ，新しい世界の発展に寄与する本物づくりを見指したいと思います。即ち，新しい価値の創造であり，その原動力はやはり技術であります。

近年，技術の対象となる領域は，従来のハード面に加えソフト面の領域まで，益々幅広く奥深くなってきていますが，人や環境に役にたって初めて技術と呼ばれる時代になると確信します。それは技術者にとっても，やりがい，満足感につながるものであると思います。

私達の企業の発展も，この道を歩む中でしか得られないと考えます。

本技術会も技術と言うキーワードのもとで，感動，共感を持つ人達の集いとして，会員相互の交流や研鑽も益々盛んになってきております。

同時に技術会の会報とこのヤマハ技報も年々充実して来ておりますが，技術情報自体が知的財産としての価値を持つ時代になり，これからの10年に向かって新しい技報のあり方を考えなくてはならない時にきていると思います。